

Title	直接配給の原理と其限度 ( 上 ) (社会的労働組織としての配給組織其三)
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.2 (1924. 2) ,p.191(37)- 223(69)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240217-0037">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240217-0037</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ことは疑ひなき事實であつて、之を是認すると否とは全く學理上の問題にあらずして便宜上の問題である。之を歴史に徴するに平等の叫び聲を最先に掲げたる者は空想に耽る學者であつて、之を利用し、之を鍛鍊して政治上に於ける倔強の武器となしたる者は政治運動に没頭する政論家である。初めはメタフィジシャンの工夫に成れる想像的の人間社會を實在の人間社會と取違へた錯誤に基きたる謬説に過ぎなかつたのであるが、ソレが不幸にして政治運動を事とする人々の手に渡つてからは、不思議にも眞に偉大なる勢力を振り廻はし、民衆政治の空氣を呼吸しつゝある國民にあつては、其の大多數を占むる下層蒙昧の人々間に於て、強固動すべからざる信條とはなつたのである。成田の不動の本性はイザ知らず、豊川稻荷の正體は何であるか、知らざるも、既に多數の信仰ある以上は或る何等かのレンゾー・データーを有することは明かである。平等思想が人間大多數の信條となつて、倔強の武器として、利用せらるゝ間は便宜上之を是認すべき理由は唯だ一つの必要である。余は此の便宜上の必要の外には之を學理上に是認すべき何にもものなしと斷言するに憚らないのである。

## 直接配給の原理と其限度 (上)

(社會的勞働組織としての配給組織其三)

向井 鹿松

「社會的勞働組織として配給組織」其二に於て現代配給組織存在の理由を論ずるに際して、余は今日の直系配給組織は勞働協同の原則によるものであつて、分業の原則に基くものでないと云ふ自説を述べた。(本誌第十七卷第十號)換言すれば大量生産物の配給の爲めに要する仕事の量は一生産者の一ヶ所に在りて處分し得る勞働の能率以上に出づるもので、此結果として特別の配給機關の存在を必要とするものであるから、此理を知らずして直系配給組織の短縮、直接配給の可能を信ずるのは猶千貫の石を一人にて運ばんとするの類なる所以を論じた。而して實際余は専ら配給勞働の見地より論じたのであるが、同一の理由は又資本の見地か

らして之を立證することが出来るのである。蓋し余は「社會的勞働組織としての配給組織」其「配給組織構成要素を論ず」(本誌十七卷第六號)に於て配給組織は勞働及び資本の合成組織である。従つて配給費用も亦此兩者の費用よりなるものであることを一言した。而して既に配給勞働によつて行ふ可き仕事の量大にして直接配給組織を必要とし、其間に多くの配給機關の存在を要する以上は此爲めに要する資本の量の又大なるは當然の事と云はなければならぬ。換言すれば直接配給組織を構成する無數の各經營はそれぞれ多大の設備資本を必要とするのみならず、貨物の運送、貯藏等の爲めにも亦莫大の資本を固定せしめなければならぬ。換言すれば言を俟たない所である。更に又生産者の製造貨物が消費者の門戸に迄移入せられて其代金を得る迄には其距離に應じて相當の期間を絶對的に必要とするのみならず、場合によりては消費者に信用をも與へなければならぬ。更に又貨物はなる可く之を消費者の附近に貯藏し、其必要に従つて何時と雖も其需要に應じ、以て初めて配給上の最高理想は達せられるのである。(一)而してかかる貯藏の必要は季節により其需要を異にする貨物に在りては特に緊切なるものがある。(二)而して生産者が直接消費者に對して配給を行はんとする場合には此等の長期間無爲に其資本を遊ばして置かなければならぬものである。茲に於てか其資力裕かならざる生産者は生産物を賣却して代金を回収する迄は其生産を中止しなければならぬものである。(三)此故に大量生産、商品生産の現代に於て生産者自から消費者に配給せんとすることは、換言すれば資本主義的經濟社會に於ける生産者の直接配給は生産者が配給に要する固定及び流動資本を自から所有することを前提として始めて行はるゝものである。而して又一面に於て直接配給を前提とする資本主義的生產は配給に要する資本の所有を俟つて始めて可能となるものであるからして、此の意味に於て一般に商業資本(Handelskapital)は生産資本(Produktionskapital)の延長又は變形なりと見る事が出来るのである。(四)而して實際に於て此生産より消費に到る迄に要する凡ての生産及び商業資本を所有せざるものは、其間に第三者の介入して其不足せる資本を補ふことを必要とするものである。則ち資本を有する者は一時消費者に代はりて資本を必要とする者に立て替へ支拂ひ、兼ねて配給上の職分をも合せ行ひて茲に獨立の商人となるもので

ある。(五)而して直系配給の距離長くして、此に要する資本亦従つて大なる場合には其系統内に於て大資本を有する配給機關の地位は益々強固であつて、假令其機關が配給労働の上に於て特別の職分を行はざるも而も尙之を直系組織より排除して、其距離を短縮することの出来ないものである。

(一) Liefmann は財貨の貯蔵を以て商業の本質としてゐる。則ち貯蔵して注文を待つにある。生産が昔の買仕事から今日の工業的企業に漸次移つて來たのは特に商業の此職分に負ふ所大である。(Die Unternehmungsformen, II Aufl. S. 15.)

(二) Spang, Introduction to Business Organisation, pp. 217-221.

(三) 本誌第十七卷第六號拙稿「配給組織構成要素を論ず」の項参照。

(四) Lexis 曰く「世人が工業及び農業資本に對して商業資本を批難するは、是れ主として生産上に於ける労働と農工業資本との關係は明白に之を認め得るに反し商業資本は外觀上何等の關係を有せざるに歸因するのである。けれども商業資本は其外觀上の形式を異にしたる流動的生産資本に外ならず。Schönborg, Handbuch der Politischen Oekonomie Bd. II, 2, S. 282.

(五) 單に流動資本ばかりでなく設備資本を有すること大なるものでも尙只それ丈の理由で商人として直系配給組織の内に入り來ることがある。Emery, Speculation on Stock and Produce Exchanges, p. 161.

二

歴史的に云へば商人が金融業者として財貨の生産及び配給の便を計かつたことは銀行業者に先だつたものであつて、此の意味に於て今日の銀行は商人より發達したと云ふことが出来る。(一)而して今日の獨立商人は自ら純配給上の労働を行ふと共に、一方には消費者に代はりて一時其資金を生産者又は上位の配給者に融通するとは前段に論述したる所である。けれども此種獨立商人の中には純配給上に於ける労働を行ふよりも寧ろ資金の供給者として重要な地位を有するものがある。例へばニューヨーク、イングラランドの紡織業に於ける販賣代理店(Selling Agent)の配給上に於ける地位は販賣上に於ける職分を行ふと共に、同時に又銀行業者たる職分を行ひ、其後者の意義は前者に劣らざるものがある。而して彼等が之をなすや生産者の振出したる手形に其の名を裏書して、之を二つの署名を有する手形(two name paper)とし、以て其地に於ける貯蓄銀行に就て低利の資金を得るを得せしむるものである。(二)

紡績業に於て商人の地位の強固なるは我國の例外を除けば世界各國共通の事

實であるが、(三)織物業に就ては我國に於ても亦之と同一の實例が存在してゐる。今假りに機業地足利市に就て見るに、此處には京阪地方より買出しに來たれる商人が足利市在住の間屋の手を経て織元より反物を買ひ取るを普通とする。而して此等の京阪地方の商人は多年同市に買ひ出しに來て經驗を有するが故に自ら織元を識つてゐる。故に強ひて望まば直接織元より買入れ、又は市場より買取ること敢て困難なりとしないのである。而も彼等が敢て之を爲さずして間屋の手を経るのは、是れ彼等が買入れたる織物を擔保として荷爲替を取り組まんとするも、彼等の信用にては足利市の銀行は其手形を割引せざるが故に、茲に間屋の信用と名義を利用して其資金を得るものである。(三)

資本主義的經濟社會に於ける財貨の移動は必ず資金(又は信用)の移動とは正反對の方向を探りて相俟つて行はるゝもので、單獨の流通を許さない。後者に停滯を生ずる場合には前者の移動亦必ず阻止せられるものである。茲に於てか財貨の圓滑なる移動を行はんとする者は又同じく資金の移動を充分に支配し得る地位に在る者でなければならぬ。而してかかる地位にある商人の中には此原則を

販賣政策に應用し財貨の移動を迅速圓滑ならしむるものがある。例之財貨特に日用品の販賣に在りては之を購ふもの多くは小額の所得にて生活する者其大部分を占むるからして自から之に掛賣をしなければならなくなる。然るに此等の者に商品を販賣する者は消費者の附近に散在する資力薄弱なる小賣商人であるからして、自己の資本を以て彼等に信用を與ふることが出來ない、そこで彼等は卸商に對して自己にも亦信用にて販賣せんことを要求するものである。信用卸商則ち是である。而して之等の卸商は卸商の勞働を行ふと共に又金融の便をも與ふる職分を有するを以て之等と取引する者は單に此等の卸商の勞働を排除し得るも而も尙資金を得ざる限りは此等卸商を飛び越えて直接生産者より其配給を受くることは出來ないのである。

商人が資金關係を利用して販賣政策を試みるのは單に回轉資本ばかりでなく、設備資本に就いても亦之を見るものである。例へば小資本と經驗を有し、小賣商店を開かんとするの機會を求めてゐる者が適當の場所を發見するも、其の權利金及び其他の設備費用大にして自から店舗を開くことの出來ない者がある。此際

製造業者又は卸商は彼等の爲めに自ら資金を投じて店舗の設備をなし、彼等をして自己の商品の販賣に當らしむる如き又此一例である。(四)(五)

斯の如く財貨の移動は必ず資本の移動と相俟つて行はれるものであるからして、資本の移動の爲めに特別の配給機關が直系配給組織内に介在して其距離を長からしむることがある。此理を看破し得ずして只財貨の移動のみを眼中に置き、徒らに空漠なる直接配給を説くが如きは、猶財貨の移動を眼中に置かずして金融論を行ふ論者と同一の誤をなしてゐるものである。

(一) 中世に於て正當なる條件の下に大量の信用取引を行つてゐたものは商人で、今日の著名の銀行の多くは此等の商人より起つたものである。(Marshall, Money, Credit and Commerce, 1923, p. 71.)

(二) Shaw, Some Problems of Market Distribution, p. 78.

(三) 中世商人が元締業者として手工業者に設備及び回轉資本を供與してゐたことは人の知る所である。而して之に類似の制度は工場工業の行はるゝ今日尙之を見ることが出来る。其一例は本文中に擧げた紡織業である。特に英國の紡織事業界に於ける商人の地位は非常に大なるものである。彼等が其擁する大資本の力を以て工業を支配し得る地位に立つたことはかの Bücher が商人は資本の力によつて生

産を指揮すと云つた言葉を文字通りに實現してゐる有様である。(Entstehung der Volkswirtschaft, S. 329) 而して Hirsch 氏は商業が斯の如く工業を指揮する地位に立つを中古の元締制度に對して工場元締制度と云つてゐる。Grundriss der Sozialökonomik, Handel, I. 2. S. 83 ff.

(四) Hirsch, a. a. O., S. 91 ff.

(五) 最近我國にて某製藥會社が自家の商品を販賣せんとする小賣商人に鐵骨マラックの提供を申し出たのも此一例である。

### 三

以上論じ來たりて吾人は今日大量生産の下に製出せられたる財貨が消費者に到る迄には(一)其期間長きが爲めに巨大の回轉資本を要し(二)其運搬、貯藏、陳列等の爲めに莫大の固定資本を必要とすることを理解した。而して此等の資本の費用は配給勞働の費用と共に配給費の一部を構成することは曩に配給組織の構成要素を論ずるに際して之を説明した處である。

然るに此等の莫大の資本は既に巨大の資本を生産のために費やした生産者の自から支出するを難たしとする所である。茲に於てか數人の商人入り來たり、回轉資本は生産物が生産者より消費者に到る期間の初期後期によりて分擔據出し、

設備資本は生産者に近き處、消費者に近き處に、それぞれ置き配給の用に宛つるものである。畢竟一生産者の處分し得る資本の量が、其生産物の配給に要する資本の高に不足するよりして、かくは數人の資本を合同するに到れるものであつて、之れ亦勞働の場合と同じく分量上の矛盾を調和せんが爲めにかくは直系配給組織を必要とするに到つたものである。

商業資本と財貨の配給を論ずるに際して尙特に一言しなければならぬのは資本主義的經濟社會に於ける直系配給組織が財貨配給上に於ける危険を負擔する制度として尙其存在の理由を有する一事である。則ち現代經濟組織の内に於て財貨の配給には常に資本の危険の存在するものであつて、其中でも景氣の變動に伴ふ價值の下落は其主なるものである。而して此の危険を負擔するは今日の配給を司るものの職分なること既に説明した所である。(一)此種の危険は生産者が其製造貨物を消費者に賣却するに至る期間の長きに從ひ大となるものである。然るに今直系配給組織により、それぞれ自己の資本と其計算に於て取引する商人が此期間を分割分擔して其間隔を縮少するに於ては生産者及び各商人の負擔す

る危険の程度は縮少せられるものである。(二)蓋し資本主義社會に於ける代價變動の危険は財貨を貨幣と交換することによつて免かれる(貨幣價值に變動なきものと假定せば)ことの出来るものであるからである。此故に直系配給組織内に一商人入り來たればそれ丈他の人々の危険の負擔を減少するものであつて、其數大なれば大なるほど一人當たりの危険は減少するものである。(三)而して直系配給系統内にある商業にとりては財貨の回轉速度の大なるに從ひ其危険は減少するものである。

此故に本誌昨年十二月號に論じた配給勞働の一點を除くも、尙直系配給組織は配給に要する資本及び之に伴ふ危険が一個の生産者に採り餘りに大であるが爲めに商人の資本の協同を必要とする爲めに其存在の理由を有するものであつて、所謂直接配給は之等に對する條件が具備して後始めて可能となるものである。

然り而して世人が此直接配給を主張するは之によつて配給費を輕減せんとするに出づるものであるが、此事は他事情を同一とし、單に資本と其期間の點丈より云ふ時は之によりてかかる効果を見ることは出来ないものである。而も世人の





直系配給組織に新商業の加入するに従ひ代價を騰貴せしむることはこれやがて商業を以て現代經濟社會に於ける寄生蟲として批難せしむるに到る所以であるが、此事は果してH. H.教授の云ふが如く自明の理として肯定せらる可きものであらうか。

此議論の誤まれることは既にアダム・スミスが之を適切に看破してゐる。則ち彼は工業上の職人又は農夫をして自から其生産物を販賣せしむるも毫も配給費を低くしない所以を詳論してゐる。蓋し手工業者又は農民が其生産物販賣の爲めに小賣店を經營したとする。此際商業及び工業の利潤が一割なれば、其各生産物の代價には凡て二割の利益を掛けなければならぬ。蓋し生産の場所から市場に持ち出す時に工業資本の一割店に運んだ時に商業資本の一割を掛けなければならぬ。若し之をなさなければ彼は損をする。最も此際生産者は二重の利潤を得たかの如き觀があるけれども全體の資本に對しては一割の利益しか得てをらぬのである。果して然らば此商業資本が生産者に屬しやうが、將た又商人に屬しやうが、何等の相違のあるものでない。否分業の理によつて商人をして販賣せし

めた方が凡て社會に利益を與ふると云ふものである。(三)

此スミスの議論は此を今日より見るも殆んど修正するの餘地なき名論である。余は自ら東京の商人で東京の西部郊外に織物工場を有し、其生産物を京橋の店舗にて卸及び小賣を爲す商人を知つてゐるが、經營費を多く要する店舗を有する彼に工場渡の代價にて賣却せんことを要求する者あらば吾人は其不合理に驚かざるを得ない。今日大量生産に要する資本は既に大である。生産者自から其生産物配給に要する資本を所有せざる以上は之を商人に求めなければならぬ。然らば此資本より生ずる利潤が其資本の所有者たる商人に歸屬するのはこれ亦當然のことと云はなければならぬ。或は商業資本の利潤が工業資本に比して不當に大なりと想像するものがあるけれども、商業資本の如く競争の大なる事業にありては此の推定も當れりとなすことは出來ないのである。(四)

生産資本と商業資本の關係の外に尙商業の利潤が大に過ぐと云ふ批難は商人の數が多いと云ふことになるのである。けれども此議論も亦當を得てゐると云ふことは出來ない。蓋し交易經濟組織の下に於て一の商人が正當の理由なくし

て餘計の商業利潤、仲買口錢、仲立手数料を支拂ふ理由は存在しないからである。(五)彼等がかかる犠牲を出して之を辭しないのは是れ彼等が之によつて他の費用を節約し、特に其回轉高の増加又は販路の便利によつて之を償ふことが出来るからである。(六)(七)蓋し回轉の増加はそれ丈一般經營費の割合を減少し、従つて又配給費を少なからしむるからである。特に獨立商人の營む商業は生産者が商業を營むに比して此の回轉高を増加せしむるものである。是れ此等の商人は一に賣買を専業とし、他に収入の方法なきを原則とするからして、常を買入れ、常に賣却するを生命として、賣惜しみ、買ひ溢りの度が少ないからである。(八)(九)此故に生産技術の關係よりして資本の回轉の遅緩なるものにありては仲介商人の介入を許して之を利用するによつて此方面に於ける資本の回轉を増加するを利益とすることがある。(一〇)

斯の如く今日の直系配給組織は極めて長いものであるけれども而も今日の經濟組織の下に於て已むを得ざるに出でたものであつて、これを短縮したりとて配給費は騰貴する場合はあつても必ずしも安くはならないことは後に説く通りである。

(1) Schär, a. a. O., S. 105.

(11) Derselbe, a. a. O., S. 104.

(12) Adam Smith, Wealth of Nations, Bk. IV, ch. V.

(四) Lewis, a. a. O., S. 282.

(五) Max Weigert 曰く「如何なる商業利潤、口錢、手数料と雖も之を支拂ふものが之によつて自から利益を受けざる限りは商業取引に於て發生するものに非ず。此の利益は種々雑多なり。……仲介商業は人が之に反對すればさて除却し得るものに非らざると共に、又商業の衰微を悲む者の哀訴ありさて新に勃興するものにも非ざるなり」。

Krisis des Zwischenhandels, S. 12.

(六) Lewis 氏は大量取引の場合には其取引を容易ならしめる必要よりして特に仲介商人の介入を必要とし、以て直系距離を延長せしむるものとして、倫敦株式取引所の取引が他國の取引所に於けるが如く Broker と Broker が直接取引せず、Dealer を經由するの事實を擧げてゐる。a. a. O., S. 282-283.

(七) 濠洲の羊毛は直接濠洲より輸入せられずして一旦英國に輸送せられ、更に我國に輸入せられるものがある。是れ充分撰別せられざる羊毛を直接輸入して多くの屑物を出すよりも假令假高くとも充分撰別せられ、品質の確實なる品を輸入するを利益とするに云ふ。

尙 *Das Rhein-Westfälische Kohlesyndikat* の云ふ所によると小賣人は少々高くともシンヤゲトより買ふよりも商人から買ふを喜ぶ。蓋し之れ商人は小賣商人の欲する所をよく知りこれを満足せしむるによる也。

(八) Roscher, *Nationalökonomik des Handels*, S. 4 u. 5, Anmerkung 5.

(九) Marshall 教授は商業が財貨配給の資本を生産者と分擔すると、其回轉を大ならしむることを商人が生産及び社會に及ぼす利益なりと説いてゐる。(Industry and Trade, p. 277.)

(一〇) 生産技術の關係が配給組織を左右することに就ては Leiner, *Betriebslehre der Kapitalistischen Großindustrie*, S. 117 を参照。

### 五

以上論じ來たりて吾人は商業資本が生産資本を補充して之に附加すること、並に商業資本の私經濟的分割は特に配給費を高からしむるものでない。否配給上多大の資本を要すればこそ、又其資本喪失の危険大なればこそ、長き直系配給組織を生ずる所以を理解した。従つて生産者が大資本を所有する場合には自から配給組織を擔當して、獨立商人を排除し所謂直接配給をなし得るものであるけれど、而も此の爲めに特に配給費の減少を見るとは限らないのである。現に商人排除

の傾向を重要しする Schär 教授すら尙商人排除によりて、從來獨立の商人の負擔したる經營費の減少は之を見とこと能はざる旨を認めてゐるのである。(一)

然らば直接配給とは如何なる意味であるか、吾人は此の點に付てしつかりした意義を確定しなければならぬ。所謂直接配給とは通俗に最初の者より買ひ (aus erster Hand) 又は最後の者に賣る (an die letzte Hand) の意であるけれども、此事其れ自體の意味が尙不明なるを免かれないのである。而して之は二様に解することが出来る。

第一に直接配給と云ふ時には設備資本の所有權分割の數、回轉資本の所有權の移轉の度數を標準として考へるものである。此の意味に従へば一生産者が出張販賣員、代理店、問屋、仲買人等を経て行ふ場合は勿論(二)尙生産者が自から工場内に小賣部を設け、各都市に自から小賣商店を經營する場合、消費者が消費組合を造り、中央購入聯合會を造りて直接生産者より買ひ入るるも共に直接配給である。此場合には直系配給組織の連鎖の各環の數は假令縮少せられないけれども尙直接配給と云ふのである。換言すれば配給財貨が同一の計算に於て行はるゝ限り、

其直系組織内にある經營の數には關係なく之を一つと見るのである。而して其所有者の數が短縮せらるれば之を直接配給の方向に進みつゝありと云ふのである。換言すれば此意味に於ける直接配給とは獨立せる商人の商業(Der selbständige Kaufmannshandel)を排除せんとするものである。(三)

現今の生産組織と社會組織が維持せられるものと假定する時は余は其當然の結果として現代に於けるが如き代表的配給組織を必要とすることを本誌昨年十二月號に論述した。而して本論文に於て余はかかる配給組織を維持する爲めには莫大の資本を必要とし、かかる巨額の資本は今日大規模生産の爲めに之れ亦巨額の資本を要する生産者の一人にして負擔し難き所以なるを述べた。此故にかかる前提の下に尙上述の意味に於ける直接配給を行はんとするものは非常の大資本を所有することを必要とするものである。而して斯の如くするに於ては茲に獨立の商人は排除せられ生産者と消費者は直接賣買を行ふ所謂直接配給の理想は實現せられるのである。而して更に一步を進めばかかる大資本を要する多數の人の共同體は茲に賣買を行ふ餘地をなからしむるに到る。例へば消費組合

が生産を兼ね行ふ場合の如き是である。(四)

(一) Schär, a. a. O., S. 115.

(二) Leinert, a. a. O., S. 119.

(三) Schär, a. a. O., 5. Teil, 22. 1, 2, 3.

けれども氏は商人の排除を云ふも商業の廢除は述べてゐない。則ち彼は生産者又は消費者は商人を排除するけれども、此時は彼等が商人の職分を自から行ふもので商業は依然として存在する。則ち彼等は自から商人である。而して彼は此種の商業を從屬的商業(Der unselbständige Handel)として前の獨立の商業(Der selbständige Handel)に對比してゐる(a. a. O., S. 177 fg.)

(四) Schär 教授は現代配給組織に於て商人排除の傾向顯著なるものありとして商人の注意を促がしたけれども(S. 212-3)此の世界より商人が全然排除せられることは説いてゐない。我國に於て配給組織に關して常に尊敬す可き論文を發表してなられる内池廉吉博士は商業研究第二卷第三號に於ける市場體系と商人排斥といふ論文で Schär 教授の配給組織の歴史的發展に關する圖解を掲げられ、左の如く批評してをられる。曰く「シェーヤは商業組織に商人介入の傾向と商人排斥の傾向との二つの運動が行はれるとして、昔日の自足經濟より次第に分化し來たりたる生産者、消費者は其間に幾多の商人を介在せしめて、現代に及んだのであるが、同時に或は生産者側より、或は消費者側より商人排斥の運動が起り來たり、遂には商人なき時代、否、生産

消費の全く一致する時代が到来するの氣運があるとして云々……更に曰く(Scharの表を見る時は)……獨立の商人階級は併呑せられ……遂に商人なき共產體に移り行くの傾向が一目瞭然に了解せられるのであるが、シェヤーの如き世界市場を説き自由經濟を信する人が容易に共同經濟團體の招來を期待するのは輕卒である……」として博士は教授の輕卒を咎めてをられるやうであるけれど同書の Fuhrer Teil に見た所では Schar 教授はどこにも博士の考へてをられるやうに「世界統一國を夢みて」をらぬやうである。Schar 教授の説く所は經濟社會に於ける配給組織の Theoretische Möglichkeit を説いたのが氏が Wirtschaftsgemeinde と云つたのは今日の大工業や特に英國の消費組合を眼中に置いてかかる共同體の初期と云つたものである。(S. 212) 而して之等は現に存在してゐるのである。けれども全社會がかかる時代になることは云つてない。否 Schar 教授自身がかかる全然商人なき時代の到來を信せざることは博士と異なる處はないやうである。則ち曰く「Wie weit sich diese wirtschaftlich-soziale Institution nach Breite und Tiefe entwickeln wird, ist heute nicht abzusehen. (S. 212)

Wollte man nun aus solchen und ähnlichen Erscheinungen (der Ausschaltungstendenz) den Schluss ziehen, dass der intermediäre Handel aussterbe, so wäre das grundfalsch…… Die Ausschaltung ist nur ein Moment, eine Seite der gesamten Entwicklungstendenz. (S. 108) 否教授は最高度に擴大をわいた Wirtschaftsgemeinde すらも尙商業(尤も氏の所謂商業とは Gütertausch を云ふ)を除く能はずとて左の如く云つてゐる。

Demn man darf nicht vergessen, dass angesichts der Abhängigkeit jedes Wirtschaftsgebietes von der Ökumane auch die ausgedehnteste Wirtschaftsgemeinde auf den Weltmarkt und Welverkehr angewiesen ist. Auch durch sie wird der Handel keineswegs ausgeschaltet. 此と同一の意味は問題の原書の表のすぐ右傍にも Schar は特に附記してある。

則ち以上記して以て聊か Schar 教授の爲めに辯ず。(商學研究第二卷第三號九三四頁以下)

## 六

直接配給を斯の如き意味に解釋し、而も直系配給組織の系統内にある經營の數を技術上減少し能はざるに於てはかかる直接配給は單に獨立の商人なる階級を廢除するに止まり、直系配給を行はんとする直接の動機たる配給費の減少は之を見ることの出來ないものである。則ち第一に直接配給組織を構成する爲めに要する資本を生産者が所有するや、獨立の商人が有するやは配給費構成の上に關係する所なく、此點に於て Schar 氏の議論の誤まれること前述せし所の如し。否かかる直接配給は却つて配給費を騰貴せしむるものである。ハバード大學の Cherington 氏の云ふ所によれば米國に於て直接配給を行ふ製造者は極めて小數であつて、而

して只此方法を以てすれば其費用餘りに嵩むと云ふ只一つの理由丈の爲めに之を行ひ得る人は極めて少ないと云ふ。蓋し是れ卸商に賣ると小賣商に賣る代價の相違を以てしては直接配給の爲めに要する費用を償ふに足りないからである。 (一) 而してカルテル又はトラストの場合でも直接配給の費用が普通の配給組織に於けるよりも高きことは Bonikowsky 氏の充分證明し得た所である。

第二にかかる直接配給の組織は回轉高を増加することが出来ない。獨立の組織が回轉高を増加し得る理由は前既に之を説明した。況んや此の組織が獨立の商人の所有になる時は彼等は利己心の發動に驅られて全力を注ぎて販賣に従事するに於てをや。かの製造業者が消費組合に賣却し、又は特に之を援助しないのは此の理由に出づるものである。例へば獨逸の *Kaisyndikate* は初め農業組合を保護獎勵する爲めに商人に對しては六歩の割引を與ふるに對し、組合に對しては一割の割引を許してゐたが、而も商人の賣却高は組合のそれに比して甚だしく劣る處がなかつた。反之シンヂカートは組合の販賣力が商人に比し甚だしく劣れるを發見し、商人の手を経て其販賣を増加せんとし、其の割引率を六分より八歩に増加すると共に、組合に對する割引率を同額に低下した一事に見るも、獨立商人による配給組織が資本回轉の高によつて配給費を減少し得るの理を發見することが出来るのである。(二)

第三に此種の直系配給系統内に於ける凡ての經營を生産者が統一的指揮の下に經營することは資本の點を別とするも、既に管理技術の上から不可能となるものである。例之米國には燐寸の卸問屋が七萬あり。又食料雜貨の小賣店は二十四萬 (*General store* を除外して) あると云ふことである。尤も凡ての種類の商品がかかる廣汎なる直系配給組織を有するものではないけれども、而も又商品の種類によりては全國に亘る配給組織は非常に廣大なるものがある。特に其取扱の困難なる貨物に於て然かるを見る。而して此等の貨物に於てはかかる組織を自ら擔當することが經營技術の上から不可能であることはかの *Das Rheinisch-Westfälische Kohlsyndikat* の會長 *Kirdorf* が獨逸内務省のカルテル調査委員會に述べたる中に最もよく之を表はしてゐる。則ち氏は曰く「シンヂカートが其産物を自から凡ての消費者に直接販賣することは全く一つの技術的、不可能事に屬するものであ

る。此事はシンヂカート成立以前各炭鑛業が自から其産物の販賣を司りし時代にも尙成さざりし所である。蓋し是れ最下位の消費者たる各個の購入者に直接販賣をなすには巨大なる施設を施さなければならぬ。而して此の爲めに生じたる經營費の増加は直接配給より生ずる代價上の利益を償ふに足らざるや明かである。而してかかる費用大なる經營は吾人の維持し得ざる所、又かかる廣大なる人員の監視監督は吾人の力の及ばざる所である。…是れ吾人が此の販賣上に於ける技術上の困難を自から責任を有する他の者にそれぞれ轉嫁する爲めに仲介商人を必要とする所以である。(四)

かの此種の直接配給に於て古からの例として常に引用せられる有名なるロツクフェラーの石油トラストの如きは自から消費者に到る迄其配給を司ると雖も實は別に姉妹會社を起こしてなる可く特別の責任と其の獨立性を與へて此の經營上の困難に應じてゐるものである。(五)

(一) Cherington, *ibid.*, p. 216.

(二) Bonikowsky, a. a. O., S., 190. ff.

(三) The Diamond Match Co. は米國に於ける燐寸販賣の九割を支配してゐるが、其販賣政策は必ず卸商の手を経るを原則としチェーンストアや購買組合には販賣しない。Cherington, *ibid.*, p. 36.

(四) 此の理由から此の Kohlsyndikat は其販賣を數個の獨立の會社に委し、只此會社にのみ直接販賣をなしてゐる。而して此等の卸商人よりなる大販賣會社は必ずしも直ちに小賣商人に販賣しない、彼等より直接購入するの資格ある商人は各其區域に應じ一定量以上を購入する者に限つてゐる。則ち彼等より配給を受け得るものは小規模の卸商及び大規模の小賣商であつて、其下に更らに純粹の地方的小賣商あり以て消費者に至るものである。(Liehmann, Kartelle und Trusts, S. 131) 尙直接配給なすことの技術上の困難は尙獨逸の製革業者も之を明言してゐる (Bonikowsky, a. a. O., S. 190 ff.)

(五) 姉妹會社をして販賣のことに當らしむるは大會社が獨立商人を壓迫しつゝある事實を蔽はんが爲めに用ひらるゝことあれども多くは以上述べたる經濟上の必要に出づるものである。(Spauling, pp. 203-4)

七

以上余は直接配給の意味を直系配給系統内に於ける所有權の分割及び之に伴ふ危険負擔者の數の多少より觀察して、其數の縮少を以て直接配給に至る傾向で

あると云ふのである。従つて同一系統内に於ける經營の數の減少は敢て問はないものである。此故に工場主が工場内又は中央都市に販賣部を置き、各地に卸部を置き、(一)其下に小賣店を經營せば之れ又直接配給である。(二)而して此意味に於ける直接配給には技術上の困難を伴ひ、其配給費の低下を見ること能はざること既に論じた所である。茲に於てか吾人は技術上の困難を伴はざる直接配給は在り得ないかと云ふ考に到達する。則ち尙他の意味に於ける直接配給を説かねばならぬ。

他の意味に於て余が直接配給と云ふのは直系組織系統内に於ける、換言すれば上下關係に立つ經營の數を減少して一つの財貨の通過する距離を短縮せんとするものである。第一の意味に於ける直接配給が企業の數の減少、所有權分割の度の縮少を意味するに對し、之は經營の數、技術上の經過を縮少せんとするものである。此區別は余の知る限りに於て何人も判然と説明した者はないやうである。蓋し之れ實際に於て第一の意味に於て配給を行ふ場合には第二の方法による直接配給が併せ行はるゝ場合があると、且つは世人が今日配給費の大なるは商業利潤

の大なるが故に中間商人を除けば此目的を達し得可しと考へたに基くものであらうけれど、而も此二つの方法の間には國民經濟組織の上より見て、又一般經濟の原則よりして重大なる相違の存するものである。

第一の方法による直接配給に於ては經濟組織の下には何等の變化をも生じない。勿論獨立商人の廢除はあり得んも、商業の廢除は勿論商業の縮少さへあり得ないのである。只一種の商業組織——それは相互間に利害衝突の大なりし組織に、他の商業組織が代つたものである。(三)従つて其極端なる場合には配給に要する設備及び勞働に何等の變化を生じないものである。従つて回轉主財 (Umsatz-*trager*)の回轉高に變化なきものとすれば配給費の減少はあり得ないものである。否之を動かす精神の相違及び其力の弱き爲めに却つて配給費を高からしむること前述した所である。然かるに第二の意味に於ける直接配給に於ては商業經營の數が減少してゐるのである。勿論大量生産の場合に於て商業經營の數の絶無はあり得ないものである。けれども最も極端の場合を云へば只一つの商業經營のみの存在して配給を司る場合があるのである。而も此の場合の商業經營は所





と直接販賣(Direct Selling)の二つに分ち、前者が會員の排外的市場組織たるに對し、後者は取引する人に制限なく現物に就てする取引なりと解してゐる。(Business Organisation pp. 200, 164-5, 207 etc.)

(五) Shaw, Some problems of Market Distributions, p. 74. 尙此外一より三、四より五は經營的意義に於ける直接配給で、三より四は企業的意義に於ける直接配給である。

八

企業的意義に於ける直接配給が配給費低減に効果大ならざることが容易に理解し得らるゝと共に、經營的意義に於ける直接配給が、若し他の條件にして前者と同一ならば、配給費輕減の上に大なる効果を有す可しとは浮薄なる觀察者の容易に首肯する所である。蓋し直系配給系統内に於ける二個又は一個の經營を維持する費用は明かに三個よりも少ないからである。けれども茲に吾人が注意を要するのは本誌昨年十二月號に述べた余の所論である。則ち今日長き距離を有する直系配給組織は生産者が自己の生産物を配給する仕事、其勞働に比して餘りに大である。従つて他の勞働を必要とする勞働協同の原則に基くと云ふ事實である。若し此事が眞理であるとするならば而して從來の經營が經濟的に行はれ

てゐたとするならば從來三個、四個の經營を要したる配給勞働が一個又は二個の經營にて同一の効果を以てなし得ることは之を認容することが出来ないのである。然るに事實今日大事業會社が之を實行して成功し居るものある所以のものは何故であるか。吾人若し此秘密を解き得んか、又經營的意義に於ける直接配給が果して配給低下の效果ありや否やをも自から解決し得るのである。

(未完)